ポスター

成人先天性心疾患：体心室機能不全

座長:片岡 功一 (自治医科大学とちぎ子ども医療センター)

Thu. Jul 16, 2015 4:50 PM - 5:14 PM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

I-P-065～I-P-068

所属正式名称：片岡功一(自治医科大学とちぎ子ども医療センター　小児手術・集中治療部)

[I-P-066]成人期の修正大血管転位における急性心不全の病像 －当院で経験した6症例の検討－

○兒玉 祥彦[1,2], 坂本 一郎[1], 山村 健一郎[3], 石川 司朗[2], 原 寿郎[3], 砂川 賢二[1] (1.九州大学病院　循環器内科,　2.福岡市立こども病院　循環器科,　3.九州大学病院　小児科)

Keywords:修正大血管転位, 急性心不全, 成人先天性心疾患

九州大学病院では成人先天性心疾患外来を開設し、福岡市立こども病院と連携し専門的診療を行っている。今回当院で管理中の成人期修正大血管転位（ ccTGA）34例（16－74歳：中央値29歳、ダブルスイッチ6例、conventional repair （ CR）17例、 TCPC 3例、無手術（ UR）8例）のうち、急性心不全を発症した6例（初回心不全時21－52歳：中央値30歳、 CR 4例、 UR 2例）について報告する。【症例1】29歳男性。5歳時にRastelli術、13歳時に導管置換を施行。29歳時に肺うっ血で入院。中等度大動脈弁閉鎖不全（ AR）、重症肺動脈弁閉鎖不全（ PR）があり、両弁置換の方針。【症例2】24歳女性。2歳時に Rastelli術、20歳時に導管置換を施行。21歳時に肺うっ血のため入院し、以後2回の入院歴あり。中等度 ARを認め今後当院にて精査予定。【症例3】28歳男性。5歳時に Rastelli術。26歳時に中等度 AR、中等度三尖弁閉鎖不全（ TR）を指摘されたが経過観察していた。27歳時に肺うっ血で入院。その後、両弁置換および導管置換を施行。【症例4】61歳男性。11歳時に肺動脈弁拡大術を施行（心室中隔欠損（ VSD）は自然閉鎖）。48歳から心不全入院を反復。重症 TRを認めたが長期予後の観点から弁置換術を行わず、心移植登録後、60歳で補助人工心臓を装着し移植待機中。【症例5】31歳女性。小児期は未診断。30歳時、妊娠35週に肺うっ血となり、挿管、大動脈内バルーンパンピングにて管理。この時 ccTGA（心内奇形なし）と診断。中等度 TRを認めたが挙児希望のため弁置換術に同意されず経過観察中。【症例6】74歳男性。52歳時、心房粗動に伴い浮腫を認め入院。この時 ccTGA、 VSD、心房中隔欠損、肺動脈弁狭窄と診断。薬物療法でコントロール困難となり、73歳時にカテーテルアブレーション（僧帽弁下大静脈峡部焼灼）。【結語】急性心不全発症症例は6例中4例が CR群、2例が UR群であった。多くの症例で TRおよび ARを認め、これらが急性心不全リスクの可能性がある。

©Japanese Society of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery